

小学校特別活動部会

部会長 校長 川上 三千夫
実践者 教諭 津 田 努

1. 研究主題

「憧れをもたれる最上級生」を目指して
～学校生活をよりよくしようとする意識を高める活動を通して～

2. 主題設定の理由

学校の最上級生としての6年生には、全校のリーダーとして果たす役割が多く期待されている。「全校に範を示し、学校生活づくりに積極的に参画する姿。」このような姿は、6年生になったからといって育つものでもなく、教師に言われたからといって身に付くものでもない。子ども達がそれぞれの役割を受けもち、協力してその責任を果たし、達成感や充実感を味わうことによって形成されていく。特別活動こそ、このような実践的な体験をつみ積み重ね、自主的、実践的な態度を育てることができると思う。

そこで、6年生となる前段階の5年生に於いて6年生となった自分たちの姿を意識し、低学年との交流活動を自分たちで計画・実践したり、全校をよりよくしようとする自主的・実践的な活動を数多く仕組むことで、学校への所属感も高まり、集団的な活動の経験も増し、協力して集団生活の向上発展を図ろうとする態度が身につく、「憧れをもたれる最上級生」への準備ができてくると考えた。

3. 主題の意味

(1) 主題について

「憧れをもたれる最上級生」とは、学校のあらゆる場面でリーダーシップを発揮し、下級生を大切に思いやり、協力して、自分たちで楽しい学校づくりを行っていかうとする姿であり、全校をよりよい方向へと導く姿である。

(2) 副主題について

集団の一員としてよりよい学校生活づくりを行うことであり、学校行事の計画の一部を担当したり、児童会の組織を活用して学校行事の運営に協力したりすることである。

4. 研究の目標

学級活動(3)「一人一人のキャリア形成と自己実現」の(ア)現在や将来に希望や目標をもって生きる意欲や態度の形成における「学級や学校での生活づくりに主体的に関わり、自己を生かそうとするとともに、希望や目標をもち、その実現に向けて日常生活をよりよくしようとする。」の在り方を究明する。

5. 研究の仮説

低学年を意識した取り組みや学級の諸問題解決を学校全体をよりよくしていくための活動へとつなげることや最上級生である6年生を意識させてすべての活動をさせていくことで、子どもたち自身も最上級生にあこがれをもち、実践を積み重ねることにより、自信を深め、よりよい学校生活を築こうと自ら学校生活に参画しようと意欲的に働きかける態度が身につくであろうと考えた。

6. 研究の内容

- (1) 職員間の意識の共有、連携
- (2) 議題選定の精選と活躍できる場の設定

7. 具体的な実践例

1 議題 全校の挨拶を進化させよう～学校生活をよりよくするために～

2 議題設定までの経過

(1) 議題設定の理由と議題が決定するまでの経過

12月の議題ポストには、「廊下を歩こうポスターの他にも学校をよりよくする活動に取り組みたい。」「自分たちの掃除の仕方について話し合い取り組むことができている。次は学校の役に立つ仕事を考えて全校に広げていけないだろうか。」「自分たちは、あいさつができていたと思っていましたが、そう思われてはいないので学校をよりよくするためにも取り組み方を考えたい。」との提案があった。それを受けて計画委員会を開き、「全校が挨拶をするためにどうすればよいか考えよう。」という議題で学級会を開くことを提案、学級全員の承認を得て、本議題が決定された。

委員会活動や体育会などの行事、学級集会活動などを通して、高学年としての役割や責任を自覚し、行動できるようになりつつある今、本議題のように、学級主体の活動に取り組みせることは、「学校の役に立ちたい」という愛校心や「みんなでやり遂げた」という成就感、「自分たちのアイデアで学校生活がよりよくなった」という自己有用感を味わわせることができるという点、活動過程で友達のよさに触れ、お互いに認め合うことができるという点等から、有意義であると考えた。また、我が国の現代教育の課題の一つとして、子ども達一人一人が自己中心的に物事を考え、「人の役に立ちたい」という意識が薄れつつある点が上げられる。よって、本議題のように、相手を意識した体験活動に取り組みせることは、豊かな心を育てるものとして大変価値があるものである。

(2) 児童の実態

本学級の児童は、男子13名、女子8名、計21名の明るくのびのびとしたクラスである。学級開き後から、係活動にも意欲的で、学級集会やみんなで遊ぶ活動、朝の会での歌や帰りの会でのクイズ等学級での生活をより楽しくしようと積極的に活動する姿が見られた。また、低学年のお世話や交流を計画して実行したり、それぞれの委員会で6年生の姿を手本としながら活動したりする中で、高学年としての自覚や責任

感は少しずつ高まりつつある。

2学期には、廊下を走る児童が多く見られることから、ポスターをつくって廊下を落ちて歩いてほしいと代表委員会で提案したり、掃除時間が騒がしくきれいできていないことから、自分達の掃除を見直そうと話し合い実践してきた。しかしまだその意識は一部の児童であって自分達の手で学校の問題点を見つけ、それを改善するために行動を起こそうとする一人一人の意識は、弱いと言える。そこで、間もなく最上級生となるこの時期に「学校をよりよくしていくために、何ができるのか」を一人一人が真剣に考え、それらを自らの手で実現していく本活動は学級目標の「自分から動く」「Giveの精神」という点にもつながるものであり、上級生として学校をリードしていこうとする心構えをつくる上で、とても大切な内容だと考える。

話し合い活動においては、5年生になった当初、自分の思いを積極的に発言できる児童がごく少数に限られていたため、学級生活のあらゆる場面で発言の仕方を指導したり、話し合いの楽しさや話し合うことの意義を伝えていたりした。こうした指導の成果が、徐々にではあるが表れ始め、自分の思いをみんなに伝えようとする児童を増やしている。

これまでに本学級では、「学級目標をつくろう」「学級目標のデザインを決めよう」「2年生との交流活動を考えよう」等といった話し合い活動を経験し、その話し合い活動の中で児童は、自分の意見が採り上げられ、あるいは統合されていくという自己有用感を感じ、一人一人が学級への所属感を味わいながら、自分達の思いや願いを実現していく喜びを実感してきた。

また、計画委員会を定期的に関き、輪番制で役割を交代しながら学級会の進め方や議題収集の仕方の指導を行ってきた。それらの経験が学級に広がるにつれて、議題をよりよく集団決定していこうとする支持的風土も徐々に形成され、前回よりも一歩前進した学級会をめざして現在活動中である。

(3) 指導にあたって

① 事前

本時の話し合い活動に向けて、まず、「廊下を歩こうポスター」の取り組みや「学級の掃除の仕方を見直そう」の取り組みの成果について話し、さらに自分達の手で学校生活をよりよくしていけることはないのかを話し、児童の中に議題の芽が育つようにしかけを行った。

学級会に向け、計画委員会の児童が学級会の中で困らないように、また自身を持って会を進められることができるように、議長団の児童とともにリハーサルを行う。リハーサルでは、あらかじめ予想される意見を考えさせたり、話し合いの進め方マニュアルを活用したりしながら、学級会の内容をイメージさせ、話し合いの柱や時間配分についても確認させておく。

学級全員が積極的に話し合いに参加できるよう、話し合いカードに自分の意見をまとめさせておくが、提案理由をしっかりと確認させ、「自分達にできること」「自分達が取り組みたいこと」について考えるよう助言した。

② 本時

本時の話し合いでは、「どういった取り組みを行っていききたいのか」という活動内容の選択だけにとどまることなく、「その活動の結果どう学校が進化していくのか」を意識した話し合いになるよう、議長団の話し合いの進め方を援助していききたい。

活動中は、活発な話し合いとなり、友達の考えも認めた発言ができるよう、自分なりの考えをまとめた学級会ノートの利用を促す。また、議長団が一人一人の考えを反映させて、スムーズに学級会を進めていけるよう、いつでも議長団の要請に応えられるよう援助していききたい。

全体で取り組む活動を決定していく中で、どんな工夫ができるのかについて意見を十分に吸い上げ、今後計画委員会で、具体的な活動計画の原案を立てられるよう援助したい。

教師の話では、話し合いを行うことで自分達の活動に対して意味をもたせようとした姿を大いに褒め、活発に話し合えたことに対する充実感を持たせ、次時の活動への意欲へとつなげていききたい。

③ 事後

本時で決定した活動内容を受けて、計画委員会から活動のめあてや日程、役割分担などについての原案を提案し、決定した後に具体的な活動に入っていく。学級会で決まったことを大切にしながら、自分の役割を責任を持って果たすことで所属感や自己有用感を味わわせたい。また、活動の過程で発見した友達のよさを伝え合う場を設定することで、活動への意欲をさらに高めていききたい。

活動している内容について代表委員会で全校に伝えたり、活動終了後は、他学年の感想を児童に伝えたりするなどして、今後の学級活動がさらに学級や学校の生活をよりよくしていくものへと高まるよう意欲を喚起したい。

3 目標

- 学校生活をよりよくする活動に関心を持ち、進んで自分の考えを述べたり、友達と協力して積極的に活動しようとする。 (関心・意欲・態度)
- 学校生活をよりよくするための活動の中で、自分と友達の思いや考えを比べながら議題決定に向けて進んで発言したり、自分の役割を責任もって果たしたりすることができる。 (思考・判断・実践)
- 議題を決定していくための話し合いの手順が分かるとともに、一人一人が意見を出し合うことでよりよい会になることを理解することができる。 (知識・理解)

4 指導計画

	児童の活動	教師の指導と援助	日時
事前の活	1 計画委員会の児童が議題案を議題化する。	○ 真崎小学校の「あいさつ」の現状について知りどんな取り組みをすれば児童会目標に近づくことができるのか助言する。	1月8日 始業式後
	2 次の学級会での議題について学	○ 議題を一人一人が理解するように配慮し、	1月9日

動	級全体の承認を得る。	共通理解ができるように助言する。	朝の会
	3 計画委員会で学級会の活動計画を作成する。	○ 提案理由や話合の柱を決定させる際には、学級目標やできていない今の状況を意識させ、活動計画を作成させるようにする。	1月9日 1月10日 昼休み
	4 学級会ノートを配り、個人の考えをまとめる。	○ この活動を行う意義をしっかりと考えるようにする。	1月10日 帰りの会
	5 計画委員会でリハーサルを行う。	○ 話合いの流れを予想して、対処の仕方を十分に考えておくように助言する。	1月14日 1月15日 昼休み
本時	○ 「第9回 学級会」を行う。	○ 今自分にできることを意識し、参加できるようにする。また、提案理由や学級目標に帰着して考えるように指導する。	1月16日 5校時
事後の活動	1 学級会で決まったことをもとに実践する。	○ 計画委員会を中心に各係と協力して役割分担を決め、記録させる。 ○ 児童の取り組みができるように時間の確保を行う。	1月17日 1月29日
	2 振り返りを行う。	○ 「めあてに沿って活動することができたか」に対して、自己評価・相互評価させるようにする。	1月30日

5 本時

(1) ねらい

- 全校の挨拶を進化させていくための取り組みを提案理由や学級目標を意識して話し合い、それぞれの取り組みのよさを出し合いながら、集団決定することができる。
(思考・判断・実践)
- 全校の挨拶を進化させていくための取り組みを、友達の思いや願いを意識し、意見交流することで、学校貢献に向けて意欲の高揚を図ることができる。
(関心・意欲・態度)

(2) 授業仮説

事前に書いた学級会ノートをもとに、友達の意見と自分の意見を比べながら聞くようにしたり、近く の友達と相談する時間を確保したりすれば、全校の挨拶を進化させていくための取り組みを集団決定することができるであろう。

学級活動計画カード

一月十六日 計画委員会

決まったこと	活動の進行計画		役割	話し合いの柱	めあて	提案理由	議題	一月十六日(木) 第九回学級活動(あいさつ)の計画
	時間	順序・内容	議長大野 副議長岩丸 ノート書記木下 黒板書記上條・木村 提案者木山					
	五分 自己紹介 五分 議題提案理由 五分 話し合いの柱・話し合い 五分 決まったこと 三分 光る行動めつけを考える。 二分 発表 五分 先生の話 三分 議長からの評価 五分 終わりの言葉	五分 話し合いの柱・話し合い 五分 決まったこと 三分 光る行動めつけを考える。 二分 発表 五分 先生の話 三分 議長からの評価 五分 終わりの言葉	かたづけをよくする 長いけいを取後まてまう ついでに話す なるべくたくさん意見 を出してもらう 大きな声で言う	あいさつがよりよくなるために、 どんな取り組みをしたらよいか。	みんなに聞こえる声でしっかり発言しよう。 反応をよくして、しっかり話を聞こう。	今までは、児童会目標の「ニコニコ顔で挨拶を」を充分に守っていたとは言えないし、金子校長先生も以前から「挨拶の大切さ」を話されていたので、これから全校を引っ張っていく僕たちが進んで取り組むことで学校全体が明るく顔になり、挨拶ができるよりよい学校になるための貢献ができると考えたから。	全校があいさつをするためにどうすればよいか考えよう。 よいか考えよう。	全校があいさつをするためにどうすればよいか考えよう。 よいか考えよう。

(3) 本時活動展開計画

第9回 学級会の計画		令和2年 1月16日(木)	第5校時
【議題】	○ 全校が挨拶をするためにどうすればよいか考えよう。		
【提案理由】	○ 今までは、児童会目標の「ニコニコ顔で挨拶を」を充分に守っていたとは言えないし、金子校長先生も以前から「挨拶の大切さ」を話されていたので、これから全校を引っ張っていく僕たちが進んで取り組むことで学校全体が明るく顔になり、挨拶ができるよりよい学校になるための貢献ができると考えたから。		
【めあて】	○ みんなに聞こえる声でしっかり発言しよう。(話す) ○ 反応をよくして、しっかり話を聞こう。(聞く)		
【話し合いの柱】	○ どんな取り組みをするのか決める。		
【役割】	○ 議長 大野 ○ 副議長 岩丸 ○ ノート書記 木下 ○ 黒板書記 上條 木村		
児童の活動	教師の指導と援助	○評価規準 ◎評価方法	
1 はじめの言葉	○ 話し合いの時間を十分に確保するため、簡潔に終わらせるように助言する。	○ 自分の考えをもち、みんなと協力できるお楽しみ会にしようとして話合いに意欲的に取り組もうとしている。	
2 議題の確認		(関心・意欲・態度)	
3 提案理由とめあての確認	○ 提案者の思いを全員が理解し、話し合いの指針となるよう事前に指導する。 ○ 大きな声ではっきりと、短時間で行えるように事前に指導・助言する。	◎ 学級会ノート・発言・観察	
4 話し合い			

<p>考えてきた活動案を出し合う。</p>	<p>○ 提案理由や学級目標を意識し、自分たちにできること、実践可能なことについて意見を出し合い、決定できるように助言する。</p>	<p>○ 真崎小学校があいさつのできる明るい学校にするための取り組みを話し合わなければならないことが分かり、話し合いを進めることができる。 (知識・理解)</p>
<p>具体的な活動内容について意見を出し合う。</p>	<p>○ 発言者が偏らないように、少数の意見も大切にされどこかに生かされるように話し合いを進めるように議長に助言する。</p>	<p>(知識・理解)</p>
<p>提案理由や学級目標に沿って、取り組み方法について決定する。</p>	<p>○ なかなか意見が出ない時には、近くの友達と相談する時間を確保するよう、議長に助言する。</p>	<p>◎ 観察</p> <p>○ 提案理由や学級目標に沿って、発言している。 (思考・判断・実践)</p>
<p>5 決まったことの発表</p>	<p>○ ノート書記に本時の話し合いを簡潔にまとめて、分かりやすくみんなに伝えるように事前に指導・助言する。</p>	<p>◎ 発言・観察</p> <p>○ 自分の役割に責任をもって議事を進行することができる。 (知識・理解)</p>
<p>6 めあての振り返り 7 光る言葉・行動</p>	<p>○ よかった点について自己評価させるとともに、友達のよかった点についても相互評価ができるように助言する。</p>	<p>◎ 発言・観察</p>
<p>8 活動を振り返って</p>	<p>○ 活動を振り返っては、時間がない場合、学級会終了後に書くようにさせる。</p>	<p>○ 提案理由や学級目標につながるよさや合意形成につながった意見を発表している。 (思考・判断・実践)</p>
<p>9 先生の話</p>	<p>○ 計画委員会の頑張りや、提案理由を意識した発言や学級全体を考えた建設的な発言・意欲的に参加していた児童を称賛するとともに、事後の活動への意欲が高まるように言葉かけをする。</p>	<p>◎ ノート・発言・観察</p>
<p>9 今日の評価と終わりの言葉</p>	<p>○ 今日の話合いについて、議長からよかったところの振り返りをさせこれからの活動への意欲につなげる。</p>	<p>○ 役割に責任を持って 議事を進行することができる。 (知識・理解)</p> <p>◎ 発言・観察</p>

8 研究のまとめ

まず初めに、学級会での話合いの進め方を学級全体に指導し、基本的な話合いのスタイルを毎月の学級会で実践することで、児童は話合い活動の経験を積み重ねることができた。

学年初めの時期は低学年を意識した議題に取り組み、実践することで高学年としての態度を身につけることができた。また、学級の諸問題解決の手立てや実践を代表委員会で報告したり提案したりしていく中で学校をよりよくしていこうとする実践的な態度が身についてきた。

9 成果と今後の課題

(1) 成果

- これから最上級生となる自分たちの姿を意識し、全校をよりよくしようとする行動が多くみられる。
- 協力してやり遂げる姿や、下級生に対して優しく親切に接する姿が見られる。

(2) 課題

- 委員会や個人の活動の差、気持ちの大きさの差を埋めていく必要がある。
- 最高学年を意識した5年生の育成を学校全体として取り組む必要がある
- 代表委員会を中心に各学年の話合い活動の充実に取り組む必要がある。

◎ 参考文献

- 小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説
- 過去研究紀要